

# 定住を支える企業を紹介します

## 中村ブレイス株式会社（大森町）



中村ブレイス株式会社 中村俊郎社長

### 世界遺産のまち大森

シルバーラッシュに沸いた江戸時代初期には、周辺を含めて20万人もの人が住んでいたといわれる大森町。では、現在の人口は？というと、約410人。往時のわずか0・2%に過ぎません。世界遺産登録で脚光を浴びる陰で、少子・高齢化が進み、今なお人口減少が進みつつあります。

### 中村ブレイスと定住支援

このような状況の中、大森町に本拠を置く義肢・装具や人工乳房などを製作する中村ブレイス株式会社（中村俊郎社長）では、「世界遺産のまちを盛り上げた

い」と会社を挙げて定住支援に力を注いでいます。

従業員で大森町に定住している方は、家族を含めると32人。中には都会地からIターンで就職した方もおられます。

### 惹きつけられた人達

上村真さん(34歳)は広島県出身。島根大学在学中に

「過疎地にあっても着実に伸びている会社」と魅力を感じて入社を決意しました。パート職で妻の亜子さん(34歳)も愛知県出身。学生時代から交際のあった真さんの思いを受け入れ、大森に住んで11年、今では三人のお子さんが大森小学校と大森幼稚園に通っています。入社一年目の松山愛さん(32歳)は大阪府の出身。



上村 真さん  
かみむらまこと さん  
さん 亜子さん



入社の動機は？と聞くと「田舎でも新しいことにどんどん挑戦していくところに惹かれました」と笑顔。

大田市に就職を決めた時はご両親も驚かれたそうですが、会社の内容を聞いて逆に応援してくれたのだそうです。「地元の方々がとてもやさしく接してください、自然がいっぱいいい感じにいます」と語ってくれました。



松山 愛さん

彼らに共通するのは「遠く離れた島根県の過疎地であつても中村ブレイスで働きたい」という強い思い。何が彼らをそういう思いにさせたのでしょうか。

## 人・地域を支える

中村社長が大森町で創業されたのは昭和49年。「大森を、広く人を集められるような、人に喜んでもらえるような町にしたい。だから大森を拠点にして、世界中の人に喜んでもらえるようなものを作りたい」という創業当時の大きな夢。

その夢を抱きながら、まだ世界遺産登録の話もない中、過疎化が進みつつある大森町で創業するという、現実の厳しさと向き合わなければなりません。

徐々に信頼を得て、業績を上げ、現在では毎年3人程度の採用を続け、従業員65人を抱える企業へ成長を遂げました。

創業から35年の時がたち、石見銀山が世界遺産登録され、今では全国から多くの人々が大森の町を訪れるようになりました。しかし、大森の町の現状は、冒頭のとおり、少子・高齢化が進

んでいます。

中村社長は「若者たちを育てながら地域を支えていきたい。若い人たちが住んでくれることが地域の一歩のパワーになるんです。もし若い人がお子さんと5人くらいで大森に住んでいただけなら、住むところを格安でご提供しますよ」と話をされました。町内に、独身向けの「さくら寮」や社宅を保有されており、地域にパワーをいただけるなら、社員以外の方でも大森に住んでいただきたい、というご提案もいただきました。ブレイス(Brace)とは、



日本のみならず、世界から認められる高い技術を持つ。義手義足、治療用・リハビリテーション用装具、乳癌術後補正用人工乳房、人工肛門等の製造販売を行う。2006年元気なモノ作り中小企業300社に選定される。

## 中村ブレイス株式会社

大田市大森町ハ132

☎ 0854-89-0231

ホームページ：

<http://www.nakamura-brace.co.jp/>

## 空想の翼で駆ける

会社の前にある石碑には、「空想の翼で駆け現実の山野を往かん」と書かれています。

この言葉は作家の松本清張氏が昭和60年に大森を訪れた際、過疎地にありながら義手義足作りに励む若者

の姿を見て、贈られた言葉だそうです。

大きな夢が一步一步現実となっていく今、大森のまちに若者が集い、人口増加に転じるのはそう遠い日ではないかもしれません。

